

# Computex 2026 と RTX Spark

CPUの速さ比べの先にある「周辺領域」を読む

---

手元で動くAI／統合メモリ／CUDAと垂直統合／設計・メモリ・セキュリティ

## 要は何か：CPUの速さ比べより、その「周辺」に構造変化が滲む

---

01

RTX Sparkは「手元で動くAI」の入口。ただし統合メモリ自体はAppleやAMDが先行

大容量メモリをCPUとGPUで分け合う発想は2020年のMac（M1）が先輩。スペックだけ見れば、RTX Sparkは必ずしも新しくありません。

02

本命は「全部ローカル」ではなく、手元とクラウドの賢い振り分け（ハイブリッド）

コンピューテックス2026の空気はハイブリッド。RTX Sparkは「ネットが切れても使えるから」ではなく、手元～クラウドの使い分けの“手元側の入口”と読めます。

03

CPUがコモディティ化するなら、値打ちは「周辺領域」に滲み出す

注目は設計（Arm／ソフトバンク）、希少資源化したメモリ、そしてAI時代ならではのセキュリティ。覇権そのものより、その周りで誰が稼ぐか、です。

※ 本稿は情報整理を目的としたもので、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。

# RTX Sparkは1ペタフロップ級の性能を手元に。ただし価格は未確定

**1** ペタフロップ

AIの計算性能（毎秒1000兆回／FP4）

**128** GB

CPUとGPUで分け合う統合メモリ

**6,144**

GPU（Blackwell世代）のCUDAコア

**20** コア

Arm系CPU（メディアテック共同設計）

## 基本情報

項目	内容
GPU / CPU	Blackwell世代 + Arm系20コア（1枚に統合）
製造	TSMC 3ナノメートル
プラットフォーム	Windows on Arm（エージェント前提）
発売	2026年秋（予定）
搭載機	Surface Laptop Ultra、Dell XPS 16、ASUS ProArt 他

## 価格（証券会社の試算ベース）

**\$1,799**

下位チップ搭載モデル

**\$2,899**

上位チップ搭載モデル

**留意** 上記はメモリ16～32GBの下位構成を前提にした試算です。看板の128GBをまるごと積んだ機種は、さらに高額になる見込みです。正式な値付けは未発表。

## 「Spark」と「Vera」は置き場所で3つに分ければ整理できる

手元

### RTX Spark

WindowsノートPCに積む、CPUとGPUを1枚にまとめたチップ。本稿の主役。

机の上

### DGX Spark

完成品の小型AIマシン。開発者・研究者がローカルでAIを試す上位機。

データセンター

### Vera / Vera Rubin

Armベースの頭脳CPU「Vera」は本格生産へ。GPU「Rubin」と組んだ一式が業務用構成。

**共通項** 手元から雲の上まで、すべて同じエヌビディアの設計思想とCUDAでつながっている——この「垂直の連続性」が、のちの鍵になります。

## 本命は「全部ローカル」ではなく、手元とクラウドの賢い振り分け



**示唆** RTX Sparkの役どころは「ネットが切れても使えるから」ではなく、手元からクラウドまでの長い使い分けの“手元側の入口”を押さえる一手と読めます。

## 統合メモリはMacが先行、エヌビディアの新しさはCUDAと垂直統合にある

### 統合メモリの「先輩」＝アップル

- 2020年のMチップ（M1）で、CPUとGPUが同じメモリを共有する設計を先に実現。
- 大容量メモリのMacは、以前からローカルで大きなAIを動かせることで知られる。
- メモリのやり取りの速さでは、最上位のMacがRTX Sparkを上回る場面もある。

### エヌビディアの新しさ＝突き詰めると2つ

#### ① CUDAという資産

GPUの上でAIを動かす共通の土台。世界中のソフトが長年これを前提に作られ、開発者は簡単に乗り換えられない。いわばAI開発の“共通語”。

#### ② データセンターとの地続き

手元のRTX Spark、机上のDGX Spark、雲の上のVeraが同じ設計思想でつながる。手元で試したものをほぼそのまま大規模システムへ。

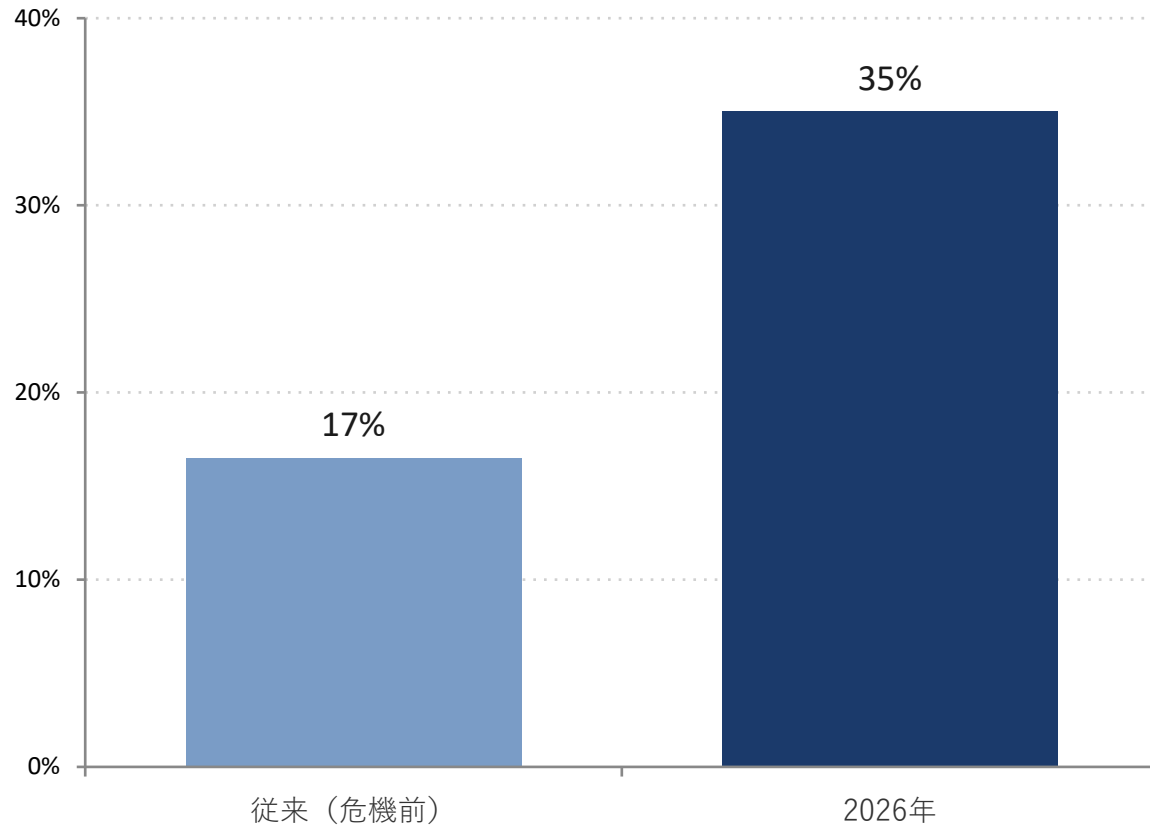
## 先客だらけの市場。各社は方式も強みも異なる立ち位置で競う

プレイヤー	CPU方式	強み	弱み・課題	立ち位置
アップル	Arm（自社）	統合メモリを先行、MacはローカルAIの定番	CUDA非対応の閉じた世界	ローカルAIの先輩
クアルコム	Arm	Windows on Armを長く先行	GPUが弱点	8年独占の解禁で構図が変化
AMD	x86（古参）	大容量メモリを手頃に（Gorgon Halo 最大192GB）	Arm系PC向けはまだ開発中	x86の二大巨頭の一角
エヌビディア	Arm	CUDA+GPU+垂直統合	PC向けは後発、前にいないと使えない	データセンターからの地続きで攻勢

**読み方** x86の古参（インテル・AMD）と、Arm陣営の攻め手（クアルコム・エヌビディア）は立ち位置が異なります。AMDは後発ではなく、x86側の二大巨頭である点に注意。

# 手元かクラウドか、どちらに転んでも増えるのはメモリ需要

パソコン1台の原価に占めるメモリの割合



手元のRTX Sparkは省電力タイプ（LPDDR5X）、データセンターのRubin系は超高速なHBMと、メモリの種類は異なります。それでも種類を超えて取り合いになり、需要はどちらに転んでも増えていきます。

**+18%**

上位機DGX Sparkは、メモリ不足を理由に発売から数か月で値上げ（エヌビディア告知）

**長期提携**

エヌビディアとSKハイニクスが、データセンター向けHBMなど次世代メモリの開発で長期提携（2026年6月）

**～2030年**

「メモリのボトルネックは2030年まで続き得る」（SKグループ チェ・テウォン会長）

# CPUがコモディティ化するなら、値打ちは設計・メモリ・セキュリティに滲む

コモディティ化に向かうCPU x86の古参（インテル・AMD）+ Arm陣営（クアルコム・エヌビディア）

## 設計

### Arm／ソフトバンク

設計図を貸し、チップが1個売れるごとに使用料。  
Armの筆頭株主はソフトバンクG（9984、約87%保有）。

## メモリ

### 希少資源化

どのチップが勝っても結局は要る土台。供給はこの先数年タイトと見られ、価格の影響は大きい。

## セキュリティ

### トレンドマイクロ（4704）

AI時代ならではの新顔。法人「TrendAI」／個人「TrendLife」へ再編し、家族向け「Kaleida」も。

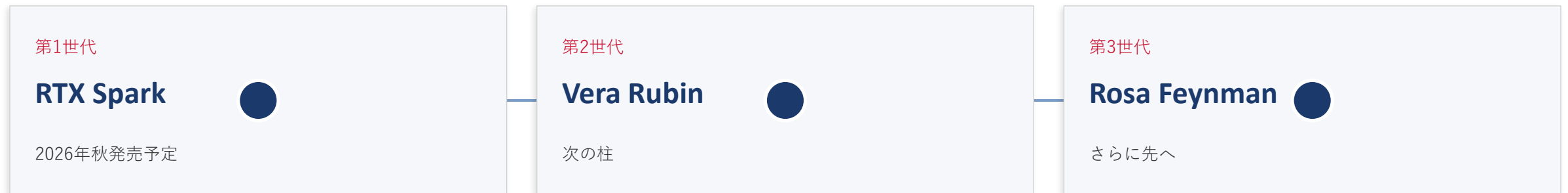
せっかくクラウドに出したくないからローカルで動かしたのに、その手元から情報が漏れては元も子もない——守りの層は、AIが手元に下りてくるほど重みを増します。

**両論併記** 市場は黎明期で標準も未完成。関連銘柄は高バリュエーション圏にあり、Arm株は歴史的な高値・ソフトバンクは重い借入を抱えるなど、振れ幅は小さくありません。ここで挙げた企業を「買い」と示すものではありません。

## あえて覇権を占うなら、鍵はCUDAと垂直統合の連続性

統合メモリやCPUは各社が競って似てきました。そのうえで覇権を占うなら、RTX Sparkの鍵は2つ——CUDAという分厚いソフトの土台と、手元からデータセンターまでを一本の設計思想で垂直につなぐ連続性です。

### 3世代のロードマップ — 腰を据えてWindows PC市場を取りにきている



データセンターの巨大なAIと、手元の小さなAIが、同じ設計思想で静かにつながり始めている。2026年のコンピューテックスは、その地続きの風景が見えた場でした。